

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人正恵会		
事業所名	グループホーム宝寿の里		
所在地	栃木県宇都宮市宝木本町1769-1 (電話) 028-666-1111		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(平成20年8月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤8人(うち兼務2人), 常勤換算7人	
	8 人	常勤8人(うち兼務2人), 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,600 円	その他の経費(月額)	水道光熱費—25,000円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年8月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.9 歳	最低	67 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮第一病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、幹線道路からやや奥まった場所にあり、周りには田園風景が広がっている。敷地内に法人の特別養護老人ホームがあり、夏祭りなど地域の方を誘っての行事やボランティアの受け入れ等、法人全体として地域の方との交流の機会をもっている。管理者は人材育成に力を入れたいと考えており、今年度からは中途採用者も含めた新人研修、チューター制度、職員個々の目標設定と評価などに取り組んでいる。法人としての資格取得の支援の仕組みもある。年2回、家族が交流する機会をつくり、6月に実施した交流会では認知症の説明などもしている。</p>
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>法人全体として中途採用も含めた新任職員の研修体系を確立したり、介護計画の作成過程での職員の参加度合いを増やしたりしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価はスタッフに聞いたりしながら管理者がまとめた。今年度から、法人全体として事業所の目標管理を仕組みとして取り入れている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員に参加してもらい2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの現状や入居者の様子を報告したり、ホームの課題を伝えたりして、質問・意見をもらっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問した際に伝えたり、必要に応じて電話連絡をしている。預り金は帳簿をつけ、家族に確認してもらっている。毎月「ほのぼの通信」を発行・送付しホームの様子や行事予定を知らせている。毎年、家族交流会を開催しており、今年6月に開催し認知症についての説明などもした。重要事項説明書にホーム、市の苦情相談窓口を明記している。家族が訪れた際には近況を伝え、意見・要望を寄せてもらえるよう話している。意見や要望が寄せられたときは申し送りノートを活用して職員間で共有を図っている。年2回、家族の交流の機会をつくり、話し合いの時間ももっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、自治会長に運営推進会議のメンバーになってもらっている。地域の祭りに参加したり、小学校の行事の招待を受けたりしている。入居者のうち5名は、長寿会(老人会)に2ヶ月に1回参加している。法人全体で実施している納涼祭や文化祭にはホームからも参加している。地域の方に参加を呼びかけ、納涼祭には500~600人の参加があった。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「忠恕をもって共に歩む」という法人理念のほかに、ホームの理念として「ゆったりと楽しく」「自由にありのままに」「一緒に過ごすケア」「暮らしに喜びと自信を」「地域や自然とふれあいながら」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務室に理念・目標・運営方針を額装して掲示しており、朝礼の際にこれらを読み上げ理念の共有を図り、理念の実践に努めている。職員からは入居者に寄り添うことや入居者が毎日を楽しそうに過ごすように過ごせるよう支援することを大切にしているということが聞かれた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、自治会長に運営推進会議のメンバーになってもらっている。地域の祭りに参加したり、小学校の行事の招待を受けたりしている。入居者のうち5名は、長寿会（老人会）に2ヶ月に1回参加している。法人全体で実施している納涼祭や文化祭にはホームからも参加している。地域の方に参加を呼びかけ、納涼祭には500～600人の参加があった。	○	隣接の特別養護老人ホームやホームには多くのボランティアも訪れているが、近隣の方々が気軽に寄ってくれるようなホームづくりを目指して、今後も地域に向けた様々な働きかけをしていくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人全体として中途採用も含めた新任職員の研修体系を確立したり、介護計画の作成過程での職員の参加度合いを増やしたりしている。今回の自己評価はスタッフに聞いたりもしながら管理者がまとめた。今年度から、法人全体として事業所の目標管理を仕組みとして取り入れている。	○	外部評価の結果は職員会議で伝えているが、今後、運営推進会議でも報告・相談するなど評価の機会を更に活かしていくことに期待したい。また、ホームの現状や強み・弱みを共有するという意味でも、職員全体で自己評価に取り組むことに期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員に参加してもらい2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの現状や入居者の様子を報告したり、ホームの課題を伝えたりして、質問・意見をもらっている。	○	運営推進会議を通して、入居者の生活を支えるため、近隣にボランティア募集することを昨年から考えているが実現には至っていない。会議の出席者が少ない回もある。運営推進会議の場を更に活かせるよう、双方向的な会議運営を図っていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との日常的なやり取りの窓口は主に計画作成担当者になっている。介護保険の更新手続き代行などで市役所に出かけたりはしているが、接点はそれほど多くない。運営推進会議への市職員の出席もない。以前は介護相談員が来ていたが、現在は市の都合で来ていない。	○	ホームの現状を積極的に伝えながら、地域密着型サービスとして市とともに入居者の生活の質の向上を図っていけるような関係を築いていくことに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪問した際に伝えたり、必要に応じて電話連絡をしている。預り金は帳簿をつけ、家族に確認してもらっている。毎月「ほのぼの通信」を発行・送付しホームの様子や行事予定を知らせている。毎年、家族交流会を開催しており、今年は6月に開催し認知症についての説明などもした。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム、市の苦情相談窓口を明記している。家族が訪れた際には近況を伝え、意見・要望を寄せてもらえるよう話している。意見や要望が寄せられたときは申し送りノートを活用して職員間で共有を図っている。年2回、家族の交流の機会をつくり、話し合いの時間ももっている。	○	年2回の家族交流会に加えて、運営推進会議への家族の参加を増やしていきたいと考えていることから、今後も家族が意見や要望を言いやすい環境づくりをすすめていくことにも期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や離職などで職員の交代は少なくはない。職員の交代があったときは、入居者一人ひとりに自己紹介・挨拶をし、夜勤のときなどに先輩職員が個々の入居者のことなどを伝え、入居者に影響がでないよう配慮している。法人として産業医のカウンセリングを受けられるようになっている。	○	法人として人材育成に力をいれており、離職防止という観点でも、その取り組みに期待したい。また馴染みの関係づくりという点での異動の配慮や家族の安心という意味での職員が変わるときの家族への知らせ方なども検討していくことに期待したい。

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体として今年度から中途採用者も含めた研修体系を確立したり、個人ごとの成長目標等を計画・評価する仕組みをつくっている。また、チューター制度（先輩職員が後輩職員を育成する仕組み）を取り入れている。認知症介護実践研修などの外部研修には交替で参加し、法人内研修の機会もある。法人として資格取得の支援制度がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。他のグループホームを見学する機会をつくりたいと考えている。	○	ホームの取り組みを振り返る機会という意味でも、職員が他ホームを見学したり、交流したりといった機会を積極的につくっていくことに期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前には必ず本人にホームに来てもらい面談し、お茶を飲んでもらったりしている。入居当初は、入居者の言動から入居者像を把握しながら、徐々に馴染めるような支援に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年数の経過とともに入居者のできることが減ってきている現状もあるが、家事など無理のない範囲で一緒に行うようにしている。入居者からは昔からの生活の知恵などを教わったりしている。		

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者も夜勤などを行い、生活の中で希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の表情・感情から読み取るよう努めたり、家族から情報を得たりして本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見・要望を聞き、職員の気づきや医師の指示等も踏まえて介護計画を作成している。計画作成担当者は、本人の情報をよりしっかりとったり、職員の介護計画への参画を高めたいと考えている。	○	日常的に入居者に接する職員の気づきをケアに活かしていくという意味でも、介護計画作成過程への職員の関与を深めていくことに期待したい。また、アセスメントを充実させたいと考えているので、家族や必要な関係者との連携を密にしなが、よりその人らしさを活かす支援のための計画作成をしていくことにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行いながら、定期的な見直しのほか、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。月1回の職員会議の後にユニットごとの会議、ケアカンファレンスの時間も持っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型認知症対応型通所介護の指定を受けている。通院や買い物など柔軟な支援に努めている。今後、医療連携体制加算の指定を受けることも検討している。		

グループホーム宝寿の里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回往診してくれるホームドクターがおり、主治医を変える方が多い。その他のこれまでのかかりつけ医に通院するときは家族が対応することとなっている。通院・診察の記録ノートを作っており、入居者それぞれが適切な医療を受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後の取り組み課題と捉えており、体制づくりや職員の研修など、これから検討していく予定である。本人や家族の希望を聞きながら、できる限りホームで過ごしてもらいたいと考えている。	○	職員間の話し合いや研修、医療機関との連携等、必要な準備・検討をすすめていくことに期待したい。また、折にふれ本人や家族との話し合いをしていくことにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入るときの声かけやトイレ誘導の際の声かけの仕方など、プライドやプライバシーに配慮した支援に努めている。自分で居室の鍵を閉める方もいる。個人記録等は事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に設けておらず、入居者それぞれのペースにそった支援に努めている。居室で過ごす方もいる。家事やレクリエーションも参加の働きかけはするが、無理強いはしないようにしている。		

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は週に3回、地元の業者から届けてもらっている。入居者のできることに合わせて、下ごしらえや後片付け等を一緒に行っている。職員も必要に応じて入居者の支援をしながら、一緒に同じ物を食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14:00ぐらいからの時間帯及び夕食後の時間帯に入浴を支援している。お湯の温度を好みに合わせたり、入浴剤を入れたり、仲の良い方同士で入浴したり、職員とコミュニケーションをしたりと入浴を楽しめるよう配慮している。毎日入浴する方も多い。苦手な方には雰囲気づくりをしながら入浴してもらえよう働きかけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	無理にならないように配慮しながら、家事を一緒にしたりしている。ドライブ、歌、体操、絵画、散歩、将棋、オセロ、トランプ、編み物など楽しみごとや気晴らしの支援もしている。	○	年月の経過とともに介助の度合いが高くなるなど、入居者個々への支援の困難さも感じている。アセスメントの向上など本人をより良く知ろうと考えていることから、今後も工夫・努力をしながら、入居者一人ひとりの充実した暮らしを支えていくことに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者の自宅が近くにあり、以前は散歩がてら、栗や柚子を取りにいったりしていた。年月の経過とともに以前のような外出は難しくなってきたが、歩行機能の維持のための散歩も含めた散歩やドライブ、行事など、外に出る機会をつくっている。	○	普段行けない場所への外出支援をしたいとも考えているので、家族とも相談したりして入居者個々の行きたい場所へいけるような支援方を検討していくことに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーチャイムがあり、職員も見守りながら鍵をかけないケアを実践している。		

グループホーム宝寿の里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特別養護老人ホームと合同で年に3回避難訓練を実施している。マニュアルも作成している。地域の方への協力依頼は法人で対応している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が食材を見てバランスを考えながらつくっており、献立はあらかじめ決めてはいない。食事・水分の摂取量を確認し、必要に応じて記録している。とろみを加えたり、好きな飲み物を提供したりしながら適切に摂取できるよう配慮している。	○	献立をあらかじめ決めないことに職員は不便を感じてはいないが、今後、重度化等も考えながら、例えば法人の栄養士に定期的にアドバイスを受けることなども検討していくことに期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一方のユニットの居間は畳、一方はソファーになっており、写真や入居者のぬり絵などを飾ったり、職員手作りの季節に合わせた飾りを飾っている。音や光は適切に配慮され、空気のおどみ等もなかった。新聞やハエ叩き、オセロなどがさり気なく置いてあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、棚、タンスなどを持ち込んだり、写真、人形などを飾るなど、それぞれの居室づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。